

### III. 2027 年度 研究指導担当教員及び研究指導領域

#### アスレティックトレーニング学学位プログラム 博士前期課程

研究指導担当教員の表記内容		
★★	研究指導教員	研究指導を担当することができる
★	研究指導補助教員	研究指導教員とともに研究指導ができる

#### 【注意事項】

出願前に必ずご自身の希望する研究指導教員と連絡を取り、担当教員とご自身の考えている研究内容を十分にご相談して下さい。事前の連絡を取らずに出願することがないようにして下さい。

教員検索（大学HP 教員情報データベース）		研究者検索（国立研究開発法人科学技術振興機構）	
-----------------------	---	-------------------------	---

#### アスレティックトレーニング学学位プログラム

（コース・50 音順）

教員名	研究指導領域
★★ 教授 伊藤 譲 博士（医学）	研究分野：柔道整復学
	<p>研究内容のキーワード：運動器外傷、スポーツ外傷、運動器疾患の評価、コンディショニングと外傷予防、柔道整復師養成教育</p> <p>柔道整復の日常業務（施術）に関する疑問をもとに、以下のような課題について検討します。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>① 手技療法、物理療法、運動療法の効果について</li> <li>② 筋や靭帯等の超音波観察装置を用いた評価について</li> <li>③ 生成AIを活用した教育手法の開発</li> </ol> <p>これまでに、当研究室で修士号を取得した院生の研究テーマは以下の通りです。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>① 大学男子ラグビー選手を対象とした下肢の外傷・障害既往歴に関する検討</li> <li>② 高周波通電刺激が筋硬度と筋収縮特性に及ぼす影響</li> <li>③ 大学男女サッカー選手の傷害既往歴に基づく下肢の身体的特徴に関する検討</li> <li>④ 足関節への急激な内反刺激による腓骨筋の反応</li> <li>⑤ シューレースの締め方が静止立位時の重心動揺、歩行と片脚幅跳び跳躍距離に及ぼす影響</li> <li>⑥ 徒手およびストレス負荷装置による足関節前方引出し時の超音波画像診断装置による評価－足関節捻挫に対する前方引出しテストの信頼性向上を目標として－</li> <li>⑦ 脱臼・骨折シミュレーターを用いたコレス骨折の徒手整復に対する教育手法の検討</li> <li>⑧ 投法の違いが前腕屈筋群の筋硬度に及ぼす影響－柔道整復師による投球障害肘予防法の確立を目指して－</li> <li>⑨ 温熱療法と電気療法の併用が運動後の筋に及ぼす影響について</li> <li>⑩ リトルリーグ選手の肘関節外反トルクの多面的検討－柔道整復師による投球障害肘予防を見据えて－</li> </ol> <p>このように様々な研究に取り組んでいます。</p>

教員名	研究指導領域
<p>★★★ 教授 岡田 隆 博士（体育科学）</p>	<p>研究分野：トレーニング科学、スポーツ整形外科、アスレティックリハビリテーション</p> <p>研究内容のキーワード：筋力トレーニング、筋肥大、筋腱複合体、除脂肪、減量、スポーツ外傷・障害、動的関節制御、腰痛、椎間板変性、リハビリ、睡眠、体幹筋、ボディビル、柔道</p> <p>1.トレーニング科学領域</p> <p>① 限局的な筋領域に効果的なトレーニング方法の開発</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 領域特異的および長軸区画的な筋活動に関する研究</li> <li>・ 対象筋の筋活動を増強する内部意識集中に関する研究</li> <li>・ 体幹深部筋のトレーニング方法の開発</li> </ul> <p>② 高い筋出力を可能にする神経生理学的メカニズムの探索</p> <p>③ 筋と腱の関係が形態および機能に及ぼす影響に関する研究</p> <p>③ 効果的な体脂肪除去方法（除脂肪）の開発</p> <p>④ 睡眠と筋力トレーニングおよび除脂肪に関する研究 など</p> <p>2.スポーツ整形外科、アスレティックリハビリテーション領域</p> <p>① 腰痛、椎間板変性</p> <p>② 主動筋と拮抗筋による関節の動的制御 など</p>
<p>★★★ 教授 梶 規子 博士（保健医療学）</p>	<p>研究分野：アスレティックトレーニング</p> <p>研究内容のキーワード：アスレティックトレーニング、コンディショニング、スポーツ外傷・障害、アメリカンフットボール</p> <p>アスリートのパフォーマンス向上、傷害発生予防に関わる研究、またスポーツ現場における安全管理、安全・安心な競技活動に関する研究を行っている。</p> <p>① スポーツ傷害の特徴を明らかにし、それに基づいた予防策の検討</p> <p>② 傷害予防とパフォーマンス向上を目的としたトレーニング方法の検討</p> <p>③ 安全・安心な競技活動実施に関する検討</p>
<p>★★★ 准教授 上倉 将太 博士（スポーツ健康科学）</p>	<p>研究分野：トレーニング科学、アスレティックリハビリテーション</p> <p>研究内容のキーワード：アスレティックリハビリテーション、運動療法、スポーツ理学療法、スポーツ外傷・障害の予防、コンディショニング</p> <p>運動器の外傷・障害に対して、その疾病構造を理解し、臨床推論を基に病態を改善する運動療法とそれらの障害予防について検討する。</p> <p>主な研究調査領域として、外傷・障害に対する治療選択について検討する。対象が高齢者の場合は、介護予防を目的とした身体機能改善について、若年者においては健康増進を中心に調査する。また、アスリートに対して、球技選手を中心としたコンディションチェック方法の確立と積極的なリハビリ方法について、さらには下肢の障害予防を中心に研究を行う。</p>
<p>★★★ 准教授 鴻崎 香里奈 博士（体育科学）</p>	<p>研究分野：運動生理学、スポーツ医学、栄養学</p> <p>研究内容のキーワード：筋損傷、筋肥大、末梢神経損傷、サルコペニア、神経筋接合部、筋電気刺激、栄養介入、ケトジェニックダイエット、スポーツ損傷、伸張性収縮、肉離れ、がん悪液質、筋ジストロフィー、代謝、実験動物</p> <p>スポーツ損傷、加齢現象、疾患などの様々な要因が骨格筋機能および構造へ及ぼす影響について、細胞・分子レベルで検証をおこないます。主に実験動物や培養細胞を用いた研究を展開していきます。研究テーマについては事前に相談した上で決定します。</p> <p>研究によって得られる成果は、スポーツ現場や医療現場へ積極的に応用することを目指します。</p>
<p>★★★ 教授 河野 徳良 Athletic Training M.S.</p>	<p>研究分野：アスレティックトレーニング</p> <p>研究内容のキーワード：アスレティックトレーニング、コンディショニング、スポーツ外傷・障害の予防、投球動作、打撃動作、スポーツ動作</p> <p>アスレティックトレーナーの学問的・職業的領域であるアスレティックトレーニングに関わる研究であり、特に現場に還元することを第一義と考えた実践的研究内容を行う。</p> <p>① スポーツ外傷・障害予防に関する研究</p> <p>② スポーツ動作からみたパフォーマンス向上に関する研究</p> <p>③ スポーツ動作からみた外傷・障害に関する研究</p> <p>④ スポーツ現場における緊急時対応計画（EAP）に関する研究</p>

教員名	研究指導領域
<p>★★ 教授 小山 浩司 博士 (体育科学)</p>	<p>研究分野：柔道整復学、スポーツ医学</p> <p>研究内容のキーワード：超音波画像装置、運動器疾患、姿勢</p> <p>柔道整復術の有効性を科学的手法で検証し、エビデンスに基づいた施術アプローチの確立を目指します。超音波画像装置を活用して施術による身体の変化を可視化し、その効果を客観的に検証します。現在、主に以下の研究に取り組んでいます。</p> <p>① 柔道整復施術前後における組織変化の比較研究 ② 運動器疾患に対する予防的アプローチに関する研究</p>
<p>★★ 准教授 田村 優樹 博士 (学術)</p>	<p>研究分野：分子運動生理学、分子運動代謝学</p> <p>研究内容のキーワード：骨格筋、脂肪、メカノバイオロジー、ミトコンドリア、リソソーム、温熱刺激、サルコペニア、廃用性筋萎縮、トレーニング、リハビリテーション</p> <p>効果的なトレーニングやリハビリテーションの創出を見据え、分子生物学の手法を用いた基礎研究を実施しています。現在実施している研究課題は次の通りですが、大学院生自身の関心に基づく研究計画の提案も歓迎します。</p> <p>① 運動や不活動、老化、疾患などに伴う「細胞/ 器官/ 個体の適応」と「分子メカニズム」の解明 ② 物理療法の「生物医学的根拠の構築」と「新規適応症の探索」 ③ 新規栄養素材の「探索・有効性検証」と「トレーニング/ リハビリテーションへの応用」</p>
<p>★★ 教授 渡邊 学 博士 (体育科学)</p>	<p>研究分野：アスレティックリハビリテーション、トレーニング科学</p> <p>研究内容のキーワード：スポーツ外傷・障害、障害予防、身体の構造、アライメント、身体動作</p> <p>運動器の外傷と障害を研究テーマとする。</p> <p>多様化する対象者の病態を理解し人々を支援する専門領域として、障害予防におけるアライメント評価とトレーニング方法に関する領域を研究する。</p> <p>研究の実施は、身体の構造とアライメント、身体動作の3つを基盤とする考えを軸とし、臨床に直結した研究を進める。また、柔道整復師における高度な専門知識と臨床技能の知見を深め、臨床で生じる疑問に対して、その現象を解明することを研究課題として検討する。</p>